

## カタ・ウパニシャッド (Part 1 – Chapter 1 のあらすじ)

主人公は、ナチケーターという男の子です。ナチケーターは、靈性の求道者にとって必要な「**シュラッター**」という性質、

- ・ 神さま、聖典、先生、自分のことを信じて尊敬している。
- ・ 謙虚。
- ・ 誠実。
- ・ 熱心。
- ・ 真理への憧れと、安定した決意を持っている。
- ・ 瞑想や識別など、靈性の修行を実践している。

を、すべて備えていました。

ある日ナチケーターのお父さんは、世俗における自分の願いを叶えるため、ヴィッシュワジイトという儀式を行いました。その儀式には決まりがあり、自分が所有しているすべての富を、儀式に参加する祭司とブラーミンにお布施として捧げることが条件でした。しかしお父さんは、富を手放したくなかったのもう役に立たなくなった牝牛などを捧げてしまいました。その正しくない行為が原因となって、お父さんが地獄に落ちるのではないかと心配したナチケーターは、「私もお父さんの富の1つですよ？ 私をどなたに捧げますか？」と質問しました。お父さんが何も答えなかったのもう、ナチケーターが同じ質問を3回繰り返すと、お父さんは怒って「お前を死神にくれてやる！」と言ってしまいました。ナチケーターは、真理の実践者としてお父さんの言葉に従い、死神（ヤマ）のもとへ旅立ちました。

ヤマは、そのとき家にいませんでした。ナチケーターは、食わず、飲まず、休まず、ヤマの帰りを3日間待ちました。インドでは来客を（特にブラーミンのお客さまを）、突然ではあっても、神さまとして丁重にもてなさなければ、その家に災いが起こるといふ教えがあります。帰宅したヤマは、「あなたは私の帰りを3日間待ってくれたので、あなたの願いを3つ叶えてあげましょう」と、ナチケ

ーターに約束しました。

ナチケーターは、まず1つ目の願いとして、「お父さんが私の死で悲しまないようによしてください。私を生き返らせてください。私が生き返っても、お化けが出たと怖がらないようにしてください」と言い、この世に関する願いを叶えてもらいました。

次に2つ目の願いとして、「天国は良いところだそうですね。私に天国へ行くための儀式を教えてください」と言い、あの世に関する願いを叶えてもらいました。教えたことをナチケーターがすぐに覚えたので、ヤマは喜び、ナチケーターに宝石の首飾りを与え、天国に行くための火の儀式を教え、その儀式には『ナーチケータ』という名前を付けてあげました。

そしてナチケーターは、3つ目の願いとして、「**人は死ぬと、その人の存在の全てがなくなりますか？ それとも何かが続きますか？ 真理について教えてください**」とお願いしました。

1つ目と2つ目は世俗的な願いでした。しかし3つ目は、神々でさえ理解することがむずかしい、真理についての質問でした。そしてこの3つ目が、カタ・ウパニシャッドのメイン・テーマです。

ヤマは、ナチケーターに真理を学ぶ準備ができているのか、テストをしました。「この世での長生き、富、子孫、王国、それだけでなく、天国の美しい女性や音楽など、欲しいものすべてを差し上げます。そのかわり、あなたの3つ目の願いはあきらめて下さい」と、世俗の楽しみでナチケーターを誘惑しました。しかしナチケーターは誘惑に負けず、「真理以外、何も欲しくありません」と、真理を求める気持ちが強いことを示しました。

ヤマはナチケーターに、真理について教えることにしました。

まず、「この世には、真理につながる幸福の道と、世俗的な快樂の道があるので、前者を選ばなければいけない。無知な人（永遠なものより一時的なものを選ぶ人）は、生死を繰り返す」と説きました。